

2026年度日系社会研修 コース概要

No	42
所管センター	横浜
分野	医療・介護・高齢化対策
研修コース名	地域保健医療福祉－病院から地域へ多職種によるチーム医療福祉
受入人数	8
受入時期	下半期
来日日	2026年11月11日（水）
帰国日	2026年12月11日（金）
提案団体	学校法人佐久学園
提案団体ウェブサイトアドレス	https://www.saku.ac.jp
研修員必要資格	* 下記の1～4のいずれかを必須資格とする 1. 医療（医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等）従事者 2. 保健福祉（ソーシャルワーカー、高齢者施設のマネージャー等で職種は問わない）に従事する者 3. 日系関連団体の施設等を利用して、高齢者が集まるサロンやデイサービス等を企画・運営している人（資格は問わない） 5. 老年学を学ぶ大学院生
研修員に必要な実務経験年数	実務経験3年以上
研修使用言語	ポルトガル語
日本語能力（JLPT目安）	N4
英語能力	英語での資料読解、発表、レポート作成可
研修目標	研修員が、病院から地域への切れ目のないケアサービスおよび多職種の協働によるチーム医療と地域包括ケアシステムの実践を学び、自国の高齢者ケアの改善に資する人材となる。
期待される成果（習得する技術）	1. 日本の高齢者医療、地域医療の現状を理解し、自国の高齢者対策へのヒントを得る。 2. 日本の都市部と農村部で展開されている地域包括ケアの実践を理解し、ブラジルの統一保健医療システム（SUS）と比較することができる。 3. 健康長寿のため、中高年期の生活習慣病予防活動を学ぶ。 4. 高齢者用住宅の利便性について理解する。 5. 高齢者の持てる力や機能を生かせるケアについて理解する。 6. 介護予防の知識・技術、実践方法について理解する。 7. 認知症ケアに有効な地域づくりについて理解する。
研修計画（内容）	研修計画（内容）： 講義、演習、視察、体験により目的を達成する。 1 週間：JICA横浜・東京研修—研修員のJob Reportの発表、総論的な講義（大都市における地域包括ケア（病院から地域に至る研修） 2 週間：佐久市を中心とする地域の農村部における地域包括ケア研修（佐久大学、JA佐久総合病院、JA鹿教湯リハビリテーション病院、佐久市立浅間総合病院、他高齢者ケア施設、訪問診療・看護・リハビリテーションの同行研修等） 2日間：JICA横浜—アクションプランの発表、評価会、閉講式
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	一世、二世の移住者の多くは、農業の担い手として入植したが、三世、四世は農業以外の職を求めて都市へ移住し、入植地では高齢化、過疎化が進み、村で構成されていた日系人会のような組織的な活動ができなくなっている地域が多い。日系高齢者は、心身の健康に不安を感じる状況である。住み慣れた地域で近隣の日系高齢者との日本語による付き合い、地域活動への参加、及び生活習慣病や認知症予防活動の機会を増やし、健康意識を高める活動が必要となっている。 本コースに応募する保健医療分野で働く研修員は、日系社会の組織に勤務している者、日系社会でボランティアをやっている者などである。訪日研修後は、本業の専門分野の知識や技術を深めたばかりでなく、日本にルーツを持つ日系人としてのアイデンティティが強く意識づけられ、ボランティア活動を積極的に展開している。帰国研修員は、所属日系団体にて認知症予防活動となる新規プロジェクトを立ち上げた。地域により、1週間に1回、或いは、1か月に1回の割合で、高齢者を対象にデイサービス（軽食付き）を実施し、対象の高齢者と家族の評価は高い。日系人が働く場は、行政、大学、研究所、病院、クリニック、農業などさまざまであるが、本研修は、社会の基礎を形成する人間関係の構築と地域づくりに良い影響を与えている。
応募希望者への特記事項	・ 来日前に、自分の所属組織の概要、強み、弱みを把握したうえで参加すること。 ・ 来日前に、自国の地域医療、高齢者対策について国の政策、州の政策、市の政策を把握しておくこと。